

(様式第1号)

指定管理者制度導入施設モニタリング票（評価対象年度:令和3年度）

施設の名称	名取市下増田児童センター
指定管理者の名称	特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ
施設所管部課（室）	健康福祉部 こども支援課

1. 管理形態の推移 【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者（管理受託者）	摘要
平成12年10月2日～平成26年3月31日 (H12.10～H20.3 関上児童センター分館) (H20.4～H26.3 増田児童センター分館)	直営		
平成26年4月1日～平成30年3月31日 (H26.4～H28.3.31 増田児童センター分館) (H28.4～ 下増田児童センター)	管理受託	特定非営利活動法人子育て応援団ひよこ (H29.8.3名称変更 特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ)	
平成30年4月1日～	指定管理者	特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ	

(注) 管理形態欄には、直営・管理受託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要 【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ
	所在地	名取市みどり台三丁目19番地の4
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日（5年0ヶ月）	
募集方法	公募 ・ 非公募	

3. 施設の概要 【施設所管課記入】

施設の名称	名取市下増田児童センター
所在地	名取市美田園七丁目22番地の2
設置年月	平成28年4月（下増田児童センターとしてセンター化）
根拠条例等	名取市児童厚生施設条例、名取市放課後児童健全育成事業の設置及び運営に関する基準を定める条例、名取市放課後児童クラブ実施条例、名取市児童館管理規則、名取市放課後児童クラブ実施条例施行規則
設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにするため児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設を設置する。
施設の内容	（旧館）静養室、クラブ室①～③等 （新館）交流室、クラブ室①～②等
開館時間	月曜日～金曜日：午前9時（小学校等休業日は午前8時）～午後7時
休館日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）
指定管理者が行う管理運営業務	放課後児童クラブ業務、自由来館業務、地域子育て支援事業（一般型）、地域子育て支援事業（出張サロン）、地域活動クラブ業務、相談業務、各種行事及びクラブ活動の実施、自主事業の実施、児童センターだよりの発行（月1回、原稿等の企画構成）、小学校への長期休業時の利用周知
利用料金制度	採用の有無 有 無
	利用料金の名称

4. 施設の利用実績 【指定管理者記入】

	評価対象年度（A）	前年度（B）	前々年度	評価対象年度の 対前年度比（％） （A） / （B）
	令和3年度	令和2年度	令和元年度	
開催日数	249日	247日	243日	100.8%
延べ利用者数	29,470人	29,620人	42,008人	99.5%
利用者数（人/日）	118.4人/日	119.9人/日	172.9人/日	98.7%
主な増減原因	令和2年度に引き続きコロナウイルス感染症拡大に伴う利用制限のため、低い水準での利用者数で推移した。			

（注）対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入すること。

5. 管理運営の収支状況 【指定管理者記入】

（１）収入

（単位：千円、％）

	評価対象年度（A）	前年度（B）	前々年度	評価対象年度の 対前年度比（％） （A） / （B）
	令和3年度	令和2年度	令和元年度	
指定管理料	38,860	38,860	33,360	100.0%
利用料金収入	-	-	-	-
その他	1,742	4,273	1,703	40.8%
収入計（ア）	40,602	43,133	35,063	94.1%

（２）支出

人件費	32,884	34,826	27,703	94.4%
施設管理費	2,109	2,356	1,663	89.5%
事業運営費	4,841	4,654	3,441	104.0%
その他	768	1,120	1,709	68.6%
支出計（イ）	40,602	42,956	34,516	94.5%

（３）収支

収支（ウ）＝（ア） －（イ）	0	177	547	0.0%
前期繰越収支差額	2,426	2,249	1,702	107.9%
次期繰越収支差額	2,426	2,426	2,249	100.0%

6. サービス向上や利用者数の増加等のために実施した主な取り組み 【指定管理者記入】

児童クラブ児童および児童クラブ卒業生（中学生）で構成する「下増田こども実行委員会」が今年も「なとりこどもファンド」へチャレンジした。

昨年のこどもファンドでは、令和5年の児童センター・公民館の合築に向け、地域の方との会食を通して地域の大人と仲良くなることを目的に、「姉妹都市の特産物同士を掛け合わせて美味しいものを作る」というテーマで取り組んだが、姉妹都市の子どもたちの交流はできたものの「地域の方々と仲良くなりたい」の目的達成には至らなかった。そこで、「誰もが知っているすごろくを、オリジナルで作成し、地域の方と一緒に楽しむことで、地域の方と仲良くなる」をコンセプトに、「下増田すごろく」作りに着手した。制作には公民館の全面協力を得、下増田の歴史をふんだんに入れたすごろくを作成することができた。

結果、地域の方々にご参加いただき、たくさんの地域の方々にご参加いただき、盛大にすごろく大会を開催することができた。年々「自分たちの児童センター」という意識に変わっていく子どもたちの姿が見られる。

7. 施設利用者の主な声やその対応状況 【指定管理者記入】

コロナ禍で行事が縮小されていく中で、「コロナ禍でも楽しめる行事を」という声が非常に多かった。

感染対策を講じながら、例年人気の「ハロウィンパレード」「クリスマスパレード」秋の「こどもまつり」を実施することができた。

利用者からは「どこにも出かけられずにいたので、久しぶりに楽しい時間を過ごせました」という声をたくさんいただいた。特に「こどもまつり」は、公民館まつりと同日開催とし、子どもたちの姿を地域の方々に見ていただく機会となり、さらに合築を意識するようになった。

自由来館の利用が制限された期間に、子育て世帯との繋がりを切らないようにするため、許される限りの利用や来館を検討し、毎月好評の「工作タイム」を「持ち帰りキット」にして配付をした。乳幼児親子には非常に好評で、「毎月楽しみにしている」というお声をいただいた。我々も、細々とではあるが、親子との繋がりを保つことができた。

8. 施設の管理運営における課題 【指定管理者記入】

令和5年の合築に向けて、利用者の期待が高まっていることを感じている。そのためにも、現中高生の利用促進は必至であるとする。

「With コロナ」期を迎え、中高生の利用促進、中高生の主体的活動の支援について、動き出していきたい。

9. 管理運営状況 【施設所管課及び指定管理者記入】

評価項目		着眼点	自己 評価	所管 評価
1. 実施 体制に 関する 評価	管理運営体制	管理運営に必要な人員配置、組織体制を整備している。	○	○
		業務に必要な職員研修や教育等を適切に行っている。	○	○
		各種管理記録を適切に整備、保管している。	○	○
	施設等の維持 管理等	施設、設備等の清掃、保守点検、修繕等を適切に行っている。	○	○
	安全対策	日常の安全管理や緊急時のマニュアル整備等の体制を整備している。	○	○
	個人情報の 保護	個人情報の管理を適切に行っている。	○	○
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	○	○
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	○	○
	法令等の遵守	特定の者に有利又は不利な取扱いをしていない。	○	○
		開館時間、休館日、使用許可等の運用が法令等に基づき適正に行われている。	○	○
		その他、関係法令等が遵守されている。	○	○
2. サー ビスの 内容や 水準に 関する 評価	指定事業の 実施	事業計画書等に基づき適切に事業を実施している。	○	○
		業務の再委託は事前に市の承諾を受け、委託先の業務を適切に管理している。	○	○
	自主事業の 実施	施設の設置目的に沿った自主事業を実施している。	○	○
	利用者の満足 度向上	利用者の満足度向上に向けた取組みを行っている。	○	◎
	利用者の苦情、 要望等の把握 とその対応	利用者アンケートなど、利用者ニーズの把握にむけた取組みを実施している。	○	○
		苦情、要望等について、受付窓口の整備や対応を適切に行っている。	○	○
	利用状況等	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	○	○
3. 経営 状況に 関する 評価	収支状況等	事業計画書等に基づく妥当な事業収支である。	○	○
		経費の節減や使用料収入の向上に向けた取組みを行っている。	○	○
		専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	○	○

【評価の基準(目安)】

評価		評価の考え方
◎	(優 良)	協定書や事業計画書等より優れた内容で管理運営を行った。
○	(良 好)	協定書や事業計画書等に基づき適正な管理運営を行った。
△	(課題有)	協定書や事業計画書等を下回る内容であり、一部の業務に改善が必要である。
×	(要改善)	協定書や事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかったため、改善を要する。

※該当しない項目については、「―」を記入する。

10. 施設所管課の総合評価 【施設所管課記入】

施設利用者が多く、放課後健全育成事業の実施箇所も複数箇所を実施する中で、安全で安心な施設運営を継続していることが評価できる。また、利用児童で構成される運営委員会の育成支援を行い、地域交流を図るなど、利用者のニーズを施設運営に活かし、児童の自発性、能動性を高める工夫が見られるところも評価できる。

今後も利用者目線に立った事業展開とさらなる利用者の満足度向上に取り組むことを期待している。